

桐英会特別公演 岡山後楽園幻想庭園「能楽の夕べ」

番 組

お話し

観世 喜正

舞囃子 大瓶狸々

北浪 貴裕
馬野 正基
浅見 慈一

大鼓 國川 純
小鼓 飯富 孔明
大鼓 金春惣右衛門
笛 八木原周平

舞囃子 野 守

観世 喜正

大鼓 國川 純
小鼓 飯富 孔明
大鼓 金春惣右衛門
笛 八木原周平

一調 山 姥

謡 大島 衣恵

太鼓 梶谷 義男

仕舞 松 風
仕舞 殺生石
清水 義也
田口 亮二

地謡 北浪 貴裕
馬野 正基
浅見 慈一

休憩

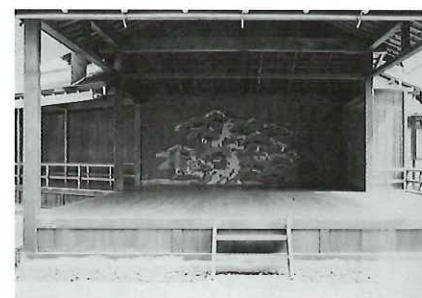
半能 融

シテ坂口 貴信
ワキ 江崎欽次朗

大鼓 原岡 一之
小鼓 横山 幸彦
大鼓 梶谷 英樹
笛 梶宅 聡
後見 清水 義久
地謡 田口 亮二
北浪 貴裕
浅見 慈一
馬野 正基
清水 義也
田口 亮二
浅見 慈一
馬野 正基
清水 義也
田口 亮二
浅見 慈一
馬野 正基

(終演 十九時頃)

★終演後は美しくライトアップされた「夏の幻想庭園」を是非ご鑑賞ください。



江戸時代後期、築庭を命じた藩主・池田綱政は、能に熱心ですぐれた舞い手でもありました。昭和 20 年の空襲で能舞台も焼失したため、現在の舞台は綱政の子・継政時代の遺構をもとに復元。鏡板の老松と右板壁の竹の絵は、郷土の画家・池田遙邨画伯の筆によるものです。

■ 舞囃子「大瓶狸々」(たいへいしょうじょう)

中国・楊子の里の市場で酒を売る孝行息子・高風のもとに、毎晩来ては酒をたらふく飲む不思議な客がいた。それは海中に棲む酒好きの妖精「狸々」であった。月の夜、高風が酒を持参し水際で待っていると、海中から狸々たちが現れ、酒を酌み交わして波を蹴立てて舞を舞い、高風に汲めども尽きぬ酒壺を与える。今回は、緩急のある独特な囃子や、水面を渡るようなシテの足使いなどを、舞囃子にてお楽しみいただきます。

■ 舞囃子「野守」(のもり)

春日野に辿り着いた羽黒山の山伏は、そこで出会った野守の老人から「野守の鏡」と呼ばれる池の由来と、真の「野守の鏡」である鬼神の明鏡について話を聞く。鬼神の鏡をぜひ見たいと思った山伏が祈禱すると、明鏡を手にした鬼神が現れ、天界から地獄の底までを隈なく映して見せると、大地を踏み破り再び地獄の底へ帰って行く。舞囃子では、鏡を持った鬼神が宇宙を鏡に映しだして見せる後半部分をご覧ください。

■ 能「融 酌之舞」(とおるしゃくのまい)

夜空に仲秋の明月が輝く京都・六条河原の院。東国から来た僧(ワキ)が休息していると、海辺でもないのに汐汲みの老人(前シテ)が現れ、かつてこの場所は左大臣源融が陸奥塩竈の浦を模して作ったとても贅沢な庭園だったが、主なき今すっかり荒れ果ててしまった…と昔を偲ぶ。そして、僧に京の山々や名所を教えるうち、汐汲みの頃合いだと言って消え失せる。老人は源融の霊だったと合点した僧の弔いをうけて、融の霊(後シテ)が在りし日の貴人の姿で現れ、月明かりのもと昔を懐かしんで舞を舞い、明け方の光に誘われるように消えていく。美しい月を愛でつづ優雅な舞が見どころの世阿弥の人気曲です。

日 程：令和 7 年 8 月 16 日[土] 午後 5 時 15 分開演 / 午後 4 時 45 分開場

会 場：岡山後楽園能舞台

チケット：前売・当日共 全席自由 5,000 円 (前売限定：当日有効の後楽園入園券付き)

【チケットお申込み・お問合せ】

公演事務局 TEL：086-222-3580 (梶谷)

岡山後楽園 TEL：086-272-1148

※未就学児および飲酒されてのご入場はお断りさせていただきます。

※主催者に許可のない写真撮影、録音、録画等は一切禁止といたします。

※靴箱の用意はございません。配布のビニール袋に入れて各自管理をお願いいたします。

※【当日券は能舞台前での販売】となりますため、後楽園入園券は別途お買い求めください。(入園券分の割引はございません)

梶谷 英樹 / 桐英会主宰

太鼓方金春流、昭和 45 年岡山県生まれ。幼少より祖父・尚太郎の手ほどきを受け、6 歳で二十二世宗家 故 金春惣右衛門 (人間国宝) のもとに入門。国内各地および海外公演にも数多く参加。東京・神奈川を拠点に活動。岡山では、父・義男とともに年に一度、後楽園能舞台にて社中会を開催している。重要無形文化財保持者 (総合認定)

梶谷 義男

太鼓方金春流、昭和 16 年岡山県生まれ。岡山金春会主宰、地元愛好者の指導にあたる。後楽園能舞台にて昭和 34 年より毎年、50 余年にわたり社中の大会を開催。